

初秋を迎え幾分暑さも和らぐ日もございますが、会員の皆様にはいよいよご隆盛のこととお慶び申し上げます。

平素は工業会の事業に格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

7月以降の各委員会・WGの活動状況を報告いたします。

技術品質委員会・安全衛生委員会・用途開発委員会・総務広報委員会	
	主だった活動報告はございません。
技能実習評価試験委員会	
7/20-21	技能実習評価試験監督者WEB教育セミナーを開催。実技試験のやり方等試験者の役割についてテキストに沿って説明する。 10月以降に東西2か所の試験会場を使用しての試行試験を開催予定する。 コロナ感染の影響で技能実習生の入国・受け入れ見通しは不明なるも、試験実施機関としての体制確立を進める。
海外事業支援WG	
7/13	阪和興業様、日本ウエスト様が新規メンバーとして参加しWEB会議を開催した。ベトナム案件については、ロックダウンで活動が制限され、またベトナム国での規格化は費用が高額になることから中断する。
7/26	環境省廃棄物規制課に、この度のサンプル輸出の件について報告をした。なお輸出を検討されている会社様は、JIS認証品が条件になりますのでご相談ください。
7/29	令和3年10月31日～11月12日に英国・グラスゴーで開催される国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)に於いて「ジャパン・パビリオン」を開設する旨連絡があったが、準備期間、人員確保が厳しく断念する。
事務局、その他	
8/4	「プラ工連 第3回勉強会 第6回バイオプラスチック利用推進WG」に参加。 内容は「バイオプラスチックのライフサイクルアセスメント(LCA)による環境影響評価」についての説明があった。
8/12	経済産業省製造産業局素材産業課訪問し、外国人技能実習制度関係の進捗状況や活動について報告をし、6月公布「プラスチックに係る資源循環の利用に関する法律」の政省令についての説明を受けた。
8/17	臨時理事会を開催した。「プラスチックに係る資源循環の利用に関する法律」関連の情報交換を行い、業所管省庁に要望書を提出することとした。
9/2	業所管省庁(環境省・経済産業省)との合同会議を開催し、工業会の要望を伝えた。 (情報交換内容は下記に詳報)

◎業所管省庁合同会議に於ける情報交換内容の詳細

日本RPF工業会の山本顧問（山本拓衆議院議員）のご尽力で環境省資源循環局リサイクル推進室、廃棄物規制課、経済産業省製造産業局循環経済課、素材産業課が参加。

環境省平尾室長から、

- この法律は3R+Renewableの原則で、今リサイクルできていないプラスチック（単純焼却・埋立）の原料化（再資源化）を進め、出来ない場合は熱回収（再資源化等）も含め利用していくことを目的としている。
- 廃プラスチック等から製造する化石燃料代替のRPFについては高効率なエネルギー利用がされており、GHG排出量の低減効果もあり、製紙業界を初め多くの産業界で利用されている。今後もRPF化には大いに期待している。この点を環境省のHP等でQ&A形式などで説明をしていきたい。
- 今後も意見交換をさせてほしい。

◎プラ新法関連の今後の動き

10月には政省令案のパブリックコメントの募集が始まる予定です。

プラ新法につきましては専門委員会で審議されてきましたので下記のサイトで確認が出来ますので参考にして下さい。<https://www.env.go.jp/council/03recycle/yoshi03-14.html>

来年4月施行になりますので、引き続き情報がございましたら報告致します。

◎海外関係関連情報

欧州でのSRFペレットの動向について情報があります。

ISO/TC300の標準化についてはスコープ拡大されSRFからSRMと変更されました。これまでに11項目で標準化されました。SDG'sの多くのターゲットで貢献できるリサイクル手法と評価されてきています。

（参考サイト）<https://www.iso.org/committee/5960430.html>

もう一点は、カーボンプライシングの影響でSRF需要が拡大しそうな動きについてです。

イギリス国でのSRF製造者の動向になります。

（参考サイト）<https://www.wasteknotenergy.com/>

（編集後記）

昨今の新聞報道を見ていると2050年カーボンニュートラルに関連した業界の動きが多く見受けられ、廃棄物を扱う業界に関連する内容も多く見受けられます。

将来を見据えた技術開発や現状はコスト的には厳しいがスタートする等、内容を深く確認して、冷静に観察することも必要になっています。

この度の業所管省庁への要望では、RPFとサーマル焼却の効果の違いで分けををお願いしたく、一定の理解を示して頂くことが出来ましたが、引き続きRPFの効果と目的をしっかりと伝え、自信をもって環境貢献できる技術であることを発信して参ります。

最後になりますが山本拓先生におかれましては、自由民主党総裁選、衆議院議員選挙と大変お忙しくなるとおられますがくれぐれもご自愛下さいませようご祈念いたします。